

平成 2 8 年 度

公立 大 学 法 人 業 務 実 績 評 価 書

平成 2 9 年 8 月

福 岡 県 公 立 大 学 法 人 評 価 委 員 会

目 次

年度評価の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	4 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

年度評価の考え方

1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）ごとに、中期目標

- ・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。

2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。

1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

2 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

※ 評価委員会の評価は、各法人が中期計画において設定した業務実施の計画や達成目標等を踏まえて行なったものであり、法人間の相対評価をしめすものではない。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、5事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成することを最も重要な使命としている。

平成28年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（社会貢献）について「特筆すべき進捗状況にある」、4項目（研究、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」、1項目（教育）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、全国初となる摂食嚥下分野等の歯科口腔保健に関する先進的教育・研究拠点として、「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置し、地域歯科保健医療活動を積極的に展開するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の平成28年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

歯科医療の高度化や高齢化社会の進展等、歯科保健医療を取り巻く環境や社会的ニーズが変化する中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより社会貢献の充実に向けた取組を更に推進されることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

教育については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成
 - ・ 歯科医学教育センター主導で、プロフェッショナリズムの醸成をカリキュラムの中に位置づけた学外宿泊研修や早期登院実習等を通して、初年次教育の活性化を図っている。
 - ・ IR室を設置し、学生データを深く分析するとともに、個別に指導する体制を強化し、歯科医師国家試験合格率を改善した。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成
 - ・ 口腔保健学専攻修士課程について、入学定員充足率を充たすとともに、修士課程修了者が歯学専攻博士課程へ進学するなど、人材の育成を進めている。
 - ・ 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、4大学間で単位互換を実施するとともに、事業報告会や研究発表、成績優秀者の表彰を行うなど、医歯工連携により人材を育成していることを評価する。
- (3) 教員の教育力の向上
 - ・ 教育改善等に係る講演やワークショップの開催により、ファカルティ・ディベロップメントの推進に努めるとともに、学長等による多面的な個人業績評価や学生及び教員による授業評価を行うなど、教育活動の改善を図っている。
- (4) 適性のある優秀な人材の確保
 - ・ 模擬講義の実施などの高大連携に取り組むとともに、高校訪問、オープンキャンパス、施設見学会等の入試広報活動を積極的に実施し、志願倍率、辞退率ともに高水準を維持している。

(5) 学生への支援

- ・学生支援及び学生指導に関するアンケート調査の評価が低下しており、原因分析と対策に取り組む必要がある。
- ・口腔保健学科において、多彩な就職先を見学する機会を作るなど、就職支援実施会議を活用して組織的な就職支援を推進し、引き続き就職率100%を達成した。
- ・熊本地震の被災者等を支援するため、授業料の減免等を行うとともに、入学料免除等の特別措置を整備した。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・論文数や学会発表数が目標を上回るなど、研究業績を適正に評価するとともに、研究成果を積極的に公表している。
- ・科学研究費補助金の獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

3 社会貢献

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や中期計画に掲げられる事項以外にも社会貢献に関する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置し、歯科医師等を対象とした摂食嚥下障害や全身疾患がある患者の口腔機能向上に関する実践的教育等を実施したことを評価する。
- ・台湾の大学と学術交流協定を新たに締結し、短期留学生の受入れを開始したことや、短期海外派遣プログラムを正規の選択科目として実施し、海外の大学に学生を派遣していることを評価する。

- ・幼稚園、老人クラブ等で歯科口腔保健に関する講演や相談を実施し、子育て支援や高齢者の健康増進に資する普及・啓発を行っている。

4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属病院の診療体制を専門診療部と総合診療部に分けるなど、患者中心の診療体制と学修者中心の教育体制の共存を図るとともに、新たに導入した電子カルテシステムを活用して診療科間の連携体制を強化したことを評価する。

5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげるとともに、高度な医療を提供する自費診療を推進している。
- ・歯科診療所では対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数が目標を上回った。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- 大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価の評価結果を全教職員にフィードバックし、大学運営の改善に反映させている。
- 創立百周年記念事業により設立した基金を活用して学生国際交流活動推進プログラムの運用を支援し、大学のブランドイメージを発信している。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、5事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、時代や社会の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点に立って、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献することのできる女性を育成することを最も重要な使命としている。

平成28年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（社会貢献）について「特筆すべき進捗状況にある」、5項目（教育、研究、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、国際的な学習環境を提供するために、海外有力大学との交換留学や海外語学研修への学生派遣、外国人留学生の受入れを積極的に行うなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の平成28年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡女子大学は、平成23年度に国際文理学部を開設し、新しい時代にふさわしい大学づくりに向けた改革に全力で取り組んでおり、一定の成果がみられる。

今後とも理事長のリーダーシップの下、全教職員が大学の理念の実現を目指した「福岡女子大学将来ビジョン」を共有し、一丸となって実効性の高い改革を進められることを期待する。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

(1) グローバル化時代に求められる基盤的・実践的な能力を養成する学部共通の教育

- ・ファーストイヤー・ゼミ授業運営のためのヒント集を作成するとともに、講義棟に新たな教育設備を整備するなど、授業内容の充実を図った。
- ・学術英語プログラムやアドバンスト・イングリッシュの充実を図るとともに、e-ラーニング教材を用いた個別学習支援等を実施するなど、英語教育を強化している。
- ・新たな短期海外学習派遣プログラムを実施するなど、国際的な学習環境の充実に積極的に取り組み、交換留学、語学研修、体験学習等の海外派遣学生数が目標を大きく上回ったことを評価する。
- ・地域コミュニティの活性化活動や海外でのフィールドスタディなど、実践的な能力を培うプログラムを実施している。
- ・「国際学友寮 なでしこ」での全寮制教育において、英語活動や国際交流活動の企画・運営、各種寮活動の活性化に学生が主体的に取り組んでいる。
- ・日本B PW連合会による国連「女性の地位委員会」インターン派遣に学生が2年連続で参加した。

(2) グローバル社会の課題に対応した各学科の教育

- ・環境科学科において、文理にわたる学問的知識を統合して考える能力を習得させるため、補習授業により学生の基礎学力の充実を図るとともに、コース横断型の学習研究プロジェクト等により総合的な能力育成を推進している。
- ・食・健康学科において、栄養・健康関連の海外体験学習プログラムを実施するとともに、実験・実習機器等を整備し、管理栄養士養成カリキュラムを改善するなど、専門教育の充実を図っている。

(3) 大学院教育

- ・人文社会科学研究科（博士前期課程）及び人間環境科学研究科（博士前期課程）の教育研究の充実を図るとともに、同研究科博士後期課程の設置準備を進め、開設を決定した。

(4) 教員の教育能力の向上

- ・学生による授業評価の公表や公開授業・授業参観を実施するなど、ファカルティ・ディベロップメントの推進に努めている。

(5) 意欲ある学生の確保

- ・高校訪問、出前講義、オープンキャンパスの開催等、入試広報活動に取り組み、志願倍率を高水準で維持しているとともに、志願者の利便性を向上するため、インターネット出願の導入準備を進めた。

(6) 学生支援の充実

- ・学術情報センターにおいて、ワークショップや企画展示、図書の寄贈受入れを行うなど、学習研究活動を支援するとともに、メンタルヘルス等の相談体制を強化している。
- ・就職対策講座や個別指導等を実施し、新規卒業生全体の就職率が高水準を維持するとともに、外国人留学生の就職率が引き続き100%となった。
- ・熊本地震の被災者等を支援するため、授業料の減免等を行うとともに、入学料免除等の特別措置を整備した。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・研究交流数、共同研究数ともに目標を上回っており、産学官連携による研究を推進している。
- ・「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」を創設し、女性の社会参加、環境、食・健康の分野での国際共同研究を拡大するとともに、事務職員及び学生を含む総合的交流を推進していることを評価する。

- ・科学研究費補助金の申請件数、新規獲得率ともに目標を上回っており、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

3 社会貢献

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や中期計画に掲げられる事項以外にも社会貢献に関する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・新たに開講した「女性トップリーダー育成研修」や「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」など、女性のキャリアアップ形成のための実践的教育プログラムの実施を評価する。
- ・地域連携センターにおいて、東部地域大学連携による地域振興や学生ボランティア活動の支援、留学生と地域との国際交流など、地域との交流・連携を推進している。
- ・出前講義やイングリッシュキャンプを開催し、小中高との教育連携を推進するとともに、参加型生涯教育授業「生涯学習カレッジ」を開講するなど、大学の知的資源を地域に還元している。
- ・「アジア地域大学コンソーシアム福岡」を契機とする国際共同教育プログラム「EAT」により、海外大学との教職員交流及び学生交流を促進するとともに、タイの大学と若手女性研究者の交流に向けた環境整備を進めた。
- ・短期受入留学生数が目標を大きく上回り、私費外国人受入留学生の出身国が過去最多の6か国となるとともに、高齢化社会における働く女性をテーマにした国際会議を開催したことを評価する。
- ・文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」に採択された「地域文化熟成を担うアートマネジメント人材育成プログラム」を実施した。

4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、全学SD研修や職員の英語力向上研修を実施するとともに、学外研修等へのプロパー職員の派遣を行った。
- ・機動的かつ戦略的な運営体制を強化するため、事務局組織体制、委員会等の再編や、将来構想等を推進する戦略企画センターの設置準備を進めた。

5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を大きく上回る収入実績をあげていることを評価する。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、大学案内をデジタルパンフレット化するなど、積極的に情報発信を行った。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、5事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

平成28年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中全て（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業、学習ボランティアの派遣等、社会貢献活動を積極的に実施するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成28年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で着実な成果をあげてきている。

今後とも地域との連携のもと社会貢献活動等に積極的に取り組むとともに、大学の理念の実現を目指して、教育研究をはじめとした業務の充実・改善に向けた取組を更に推進されることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

（1）教養教育の充実

- ・グローバル化へ対応するため、新たな科目の開設を進めるとともに、教養演習英語クラスを開講するなど、語学教育の充実に取り組んでいる。

（2）専門教育の充実

- ・中長期・実践型インターンシップとして他大学と連携プログラムを実施するとともに、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の連携大学との単位互換や合同短期研修を実施するなど、大学間の相互連携による教育の充実を図っている。

（3）教育効果を検証するシステムの構築

- ・就職率が過去最高を達成するとともに、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。

（4）教員の教育能力の向上

- ・教員間の授業参観や公開授業を実施するとともに、学生の意見を聴取する機会を作るなど、ファカルティ・ディベロップメントの推進に努めている。

（5）優秀な学生の確保

- ・オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加、SNSを活用した情報発信等、入試広報活動に取り組み、志願倍率が高水準を維持している。
- ・意欲ある学生を確保するため、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。

(6) 学生支援の充実

- ・系統的キャリア形成支援講座や段階的インターンシップ・プログラムなど、きめ細かなキャリア形成支援に努めるとともに、GPA制度を活用した個別指導を行っている。
- ・熊本地震の被災者等を支援するため、授業料の減免等を行うとともに、入学料免除等の特別措置を整備した。

(7) 学習環境の充実

- ・図書館の情報端末を充実するとともに、学生選書ツアーを開催するなど、学生が利用しやすい環境づくりを進め、ラーニングコモンズ利用者数や開館延長時間内の利用者数が目標を上回った。

(8) 人間社会学部の改革

- ・3つの全学横断型教育プログラム（援助力養成プログラム、国際交流プログラム、キャリア形成支援プログラム）のカリキュラムを充実するとともに、保健福祉情報教育プログラムを開設した。
- ・国際交流プログラムに新たに設定した4年間で卒業が可能な留学コースを利用して、学生が長期留学した。

(9) 両学部連携の大学院博士課程の新設

- ・改革推進会議で議論を行った。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の応募率及び獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。
- ・厚生労働科学研究に関わる利益相反について、外部有識者を入れた審査体制を整備し、透明性を確保して審査を行った。

3 社会貢献

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域・国際交流コーディネーター及び国際交流チューターの配置や、中国の大学との新たな学術交流協定の締結など、国際交流を推進するとともに、受入留学生数が目標を上回った。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、サポーター派遣人数や登校開始率が過去最高を達成するなど、不登校・ひきこもり対策を積極的に行っていることを評価する。
- ・地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した回数が計画を大きく上回るなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援していることを評価する。
- ・看護実践教育センターにおいて、糖尿病に関するリカレント教育などを実施するとともに、糖尿病看護認定看護師の認定審査合格率が引き続き100%となった。

4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、大学改革セミナーを実施するとともに、外部研修会への職員派遣を行った。

5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めている。
- ・週休日の振替を徹底するなど、時間外勤務が前年度より縮減された。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、ホームページのリニューアルを行うなど、広報活動の充実を図った。